

算数の目の輝き ～研究テーマを共有する～

ハイライト：

- ・イノベーション ～久原小学校がめざす学習指導～
- ・子どもの目が輝く姿は、学習過程の段階別に整理していきます。
- ・算数の目の輝き
～問題提示・めあて・見通し～
- ・算数の目の輝き
～自力解決・集団解決～
- ・算数の目の輝き
～練習問題・まとめ～

イノベーション ～久原小学校がめざす学習指導～

昨年度は、研究のキーワードとして、「イノベーション（技術革新）」を掲げていました。久原小学校ならではのチーム力を生かした研究推進の方法は、従来のものと違い、イノベーションとなり得るものでした。また、個々の先生方にとっても、今までの自分の指導をレベルアップさせた新しい指導を生み出すことができ、それぞれのイノベーションがすすんできています。

本年度の学校経営要綱のキーワードは「つなぐ」です。主題研究においても、昨年度の研究で積み上げてきた研究推進の方法や個の指導力を生かし、新たなイノベーションへと進化させていきたいと思います。

4月5日の主題研修では、近接学年部会での協議も交え、本年度の研究の方向性と課題を大まかに共通理解していくことができました。ここでも確認し

ていきましたが、次のステップは、「子どもの目が輝いている姿」と「聴き合い・語り合い活動」の具体化になります。

研究テーマとして掲げている「子どもの目が輝く学習」には、どんな学習があるのでしょうか？また、「聴き合い・語り合い活動」とは、どんな内容をどのように構成していくものになるのでしょうか？教科（国語科・算数科）、発達段階（低・中・高学年）で、具体的に整理していきましょう。

本日の研修で、授業づくりのベースとなる内容と方法を提案していきます。付加・修正・強化する内容や方法を、5月15日に行う提案授業と授業整理会において全職員で協議していくことで、研究テーマをさらに進化させ、よりよい授業を生み出していきましょう。

子どもの目が輝く姿は、学習過程の段階別に整理していきます。

本年度の研究テーマは次のように設定しています。

子どもの目が輝く学習の創造
～聴き合い・語り合い活動を中心に～

子どもの目が輝く姿を具体化していくにあたって、まず、昨年度行ったKJ法での協議内容を整理していきます。

協議のもととなった授業は、4年生算数「変わり方」の学習でした。本時での主な活動は、人の数とテーブルの数を、図や表を使って調べ説明していくもので、追究方法の違いをもとに聴き合い・語り合い活動を構成していきました。

協議会で明らかになったこととして、学習過程の段階ごとに「子どもの目が輝く姿」を見取ることができることが挙げられます。学習の展開は、「問題提示」、「見通し」、「めあて」、「自力解決」、「集団解決」、「練習問題」、「まとめ」という一般的なものでしたが、それぞれの段階で、その段階に応じた子どもの目が輝く姿を見取ることができるのです。

また、その姿を生み出すための中核となる手だてとして「聴き合い・語り合い活動」があります。この活動は、集団解決の段階に限らず、その内容や方法によって、どの段階にでも設定できます。

算数の目の輝き ～問題提示・見通し・めあての段階～

まず、問題提示・見通し・めあての段階での子どもの姿を具体化していきます。

「えっ。なぜ」

問題への疑問をもつ

「きっとこんな問題だろう」

問われることを予想する

「どうすれば解けるかな」

前時の学習を活用する

「あっ。わかった」

解決への見通しをもつ

「きっとこう考えたんだ」

友達の考えの意図を予想する

「この方法を使っていこう」

自分なりのめあてをもつ

これは、授業をもとに先生方が見取られた姿を抜粋したものです。子どもの目が輝く姿を見取るために、発言やつぶやきだけでなく、子どもたちの様相を細かく評価していきましょう。

また、これらの姿は、レベルの違いこそあれ、どの学年の学習においても生み出すことができます。その手だてとして、「聴き合い・語り合い活動」を設定していくことになります。

ただし、これらの段階に必ず設定する必要はありません。本時学習の主となる目標の達成にむけ、適切に設定していくことが「聴き合い・語り合い活動」を有効に機能させていきます。

子どもの目の輝きは、多様な視点から見取っていくことが大切です。

算数の目の輝き ～自力解決・集団解決の段階～

次に、自力解決・集団解決の段階での子どもの姿を具体化していきます。

「できた。わかった。」

数学的な表現（言葉、数、式、図、表）をもとに自力解決する

「わかりやすく説明しよう。」

数学的な表現を用いて、解決の過程や根拠を説明する

「わかった。そういうことか。」

数学的な表現を用いて、自他の考えを伝え合い、類比・対比して関係づけながら数学的な価値を追求する

自力で問題を解決できた時、自分の考えをうまくノートに表現できた時、

交流活動を通して、新しい考えと出会った時、当然のことですが、子どもたちの目は輝いています。

しかし、自分にとって容易な問題であったり、解決方法が限られていたりした場合、その輝きは小さくなります。

そこで、多様な追究方法や答えがある問題（オープンエンド）を設定していくことが、目の輝きを大きくする方法の一つとなります。また、このような問題設定は、「聴き合い・語り合い活動」を有効に機能させていくための条件ともなります。



算数の目の輝き ～練習問題・まとめの段階～

最後に、練習問題・まとめの段階での姿を具体化します。

「やってみよう。できそうだ。」

自他の追究方法を活用して、練習問題を解く

「今日の学習では、これが大切だ」

本時の学習をふり返り、数学的な価値を強化する

「今日の学習では、ここがよかった」

自他の活動のよさを評価する

練習問題を解くことは、本時学習で学んだ数学的な価値を実感する上でとても大切なことです。交流活動で付加・修正・強化された考えを、実際に使ってみることが理解を深めることになり、目の輝きを大きくすることになります。

また、まとめの段階に、自己評価、相互評価を取り入れることで、子どもたちにとっての数学的な価値はさらに大きくなっていきます。